

日本アレルギー学会東北支部主催

第5回 日本アレルギー学会東北地方会

プログラム・抄録集

会 長

東北医科薬科大学医学部 耳鼻咽喉科学

太田 伸男

■一般演題	セッションⅠ	10:05~10:59
	セッションⅡ	10:59~11:26
	セッションⅢ	13:10~13:55
■教育講演Ⅰ		9:35~10:05
教育講演Ⅱ		12:40~13:10
教育講演Ⅲ		15:55~16:25
教育講演Ⅳ		16:25~16:55
■会長特別企画		14:00~14:40
■教育セミナー1		8:35~ 9:35
教育セミナー2		11:35~12:35
教育セミナー3		14:50~15:50

日 時：令和5年11月25日（土）

会 場：TKPガーデンシティ仙台 AER 21階 ホール21A
〒980-6130 宮城県仙台市青葉区中央1-3-1

参加費：1,000円（当日受付にてお支払いください）

※初期研修医、学部学生は無料

地方会事務局

東北大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学分野

〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1

TEL：022-717-8539 FAX：022-717-8549

E-mail：jsa-tohoku@rm.med.tohoku.ac.jp

演者の方へ

1. 一般演題発表について

●一般演題発表時間 7分 討論時間 2分

口演中は緑色ランプが点灯、1分前に黄色ランプ、終了時に赤色ランプが点灯しますので時間を厳守してください。

●発表はコンピュータープレゼンテーションで下記の条件で準備してください。

- ・発表用データは、発表の30分前までにPC受付にお持ちください。
- ・Windows では、文字化け防止のため次のフォントを使用してください。
日本語：MSゴシック、MS 明朝、MSP ゴシック、MSP 明朝 英語：Century、Century Gothic、Arial、Times New Roman、Symbol
- ・動画、アニメーション、音声の使用はお断りします。

USBメモリによるデータ受付について

- ・発表用PCはWindows10となります。
- ・プレゼンテーションソフトはMicrosoftPowerPointとなります。
- ・円滑な進行のため、発表者ツールの使用はご遠慮ください。

PCをお持ち込みされる場合

- ・Macintoshについては、各自PCの持ち込みと致します。
- ・電源アダプター及びHDMIの変換ケーブルも忘れずにお持ちください。
- ・ウイルスチェックは事前に十分に行ってください。
- ・スクリーンセーバーならびに省電力設定は予め解除してください。
- ・会場にて用意したプロジェクターと接続できない場合に備え、バックアップ用のデータをご持参ください。

2. 利益相反（COI）の開示について

筆頭発表者は、スライドの最初に（または演題・発表者などを紹介するスライドの次に）今回の演題発表に関連するCOI状態を開示してください。

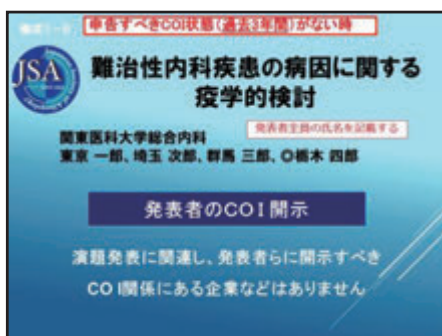
※詳細は日本アレルギー学会ホームページ内の下記ページ「利益相反（COI）の開示について」をご覧ください。

https://www.jsaweb.jp/modules/about/index.php?content_id=69

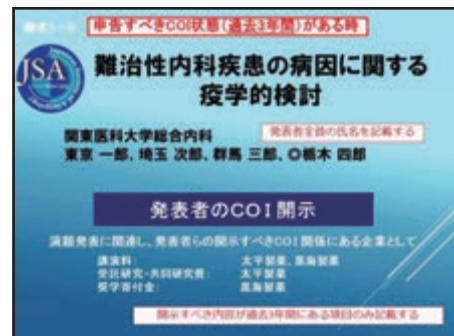
※様式はホームページからダウンロードできます。

スライド開示例

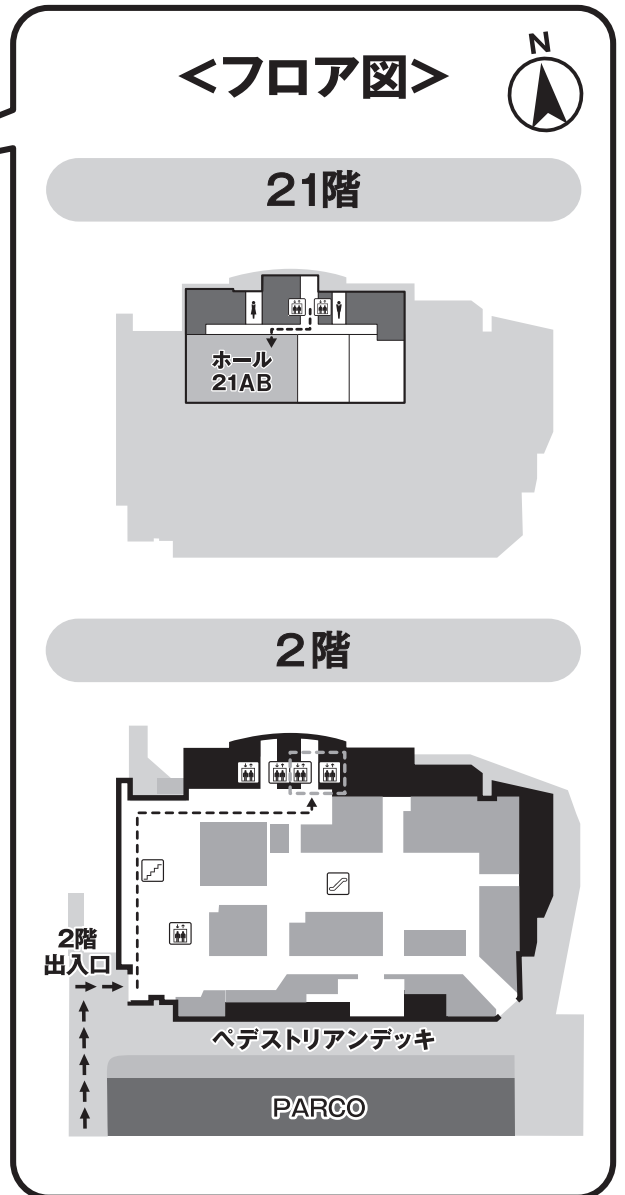
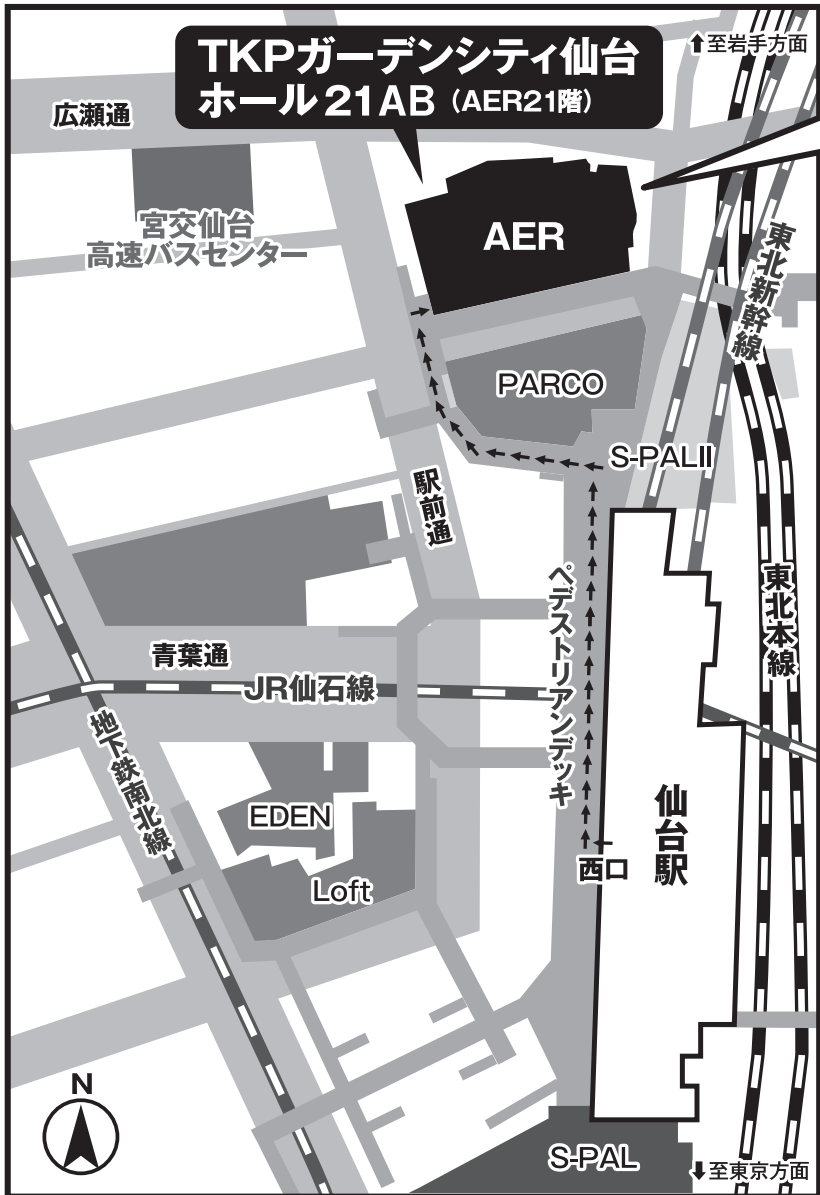
【申告すべきCOI状態がない時】



【申告すべきCOI状態がある時】



会場案内図



会場

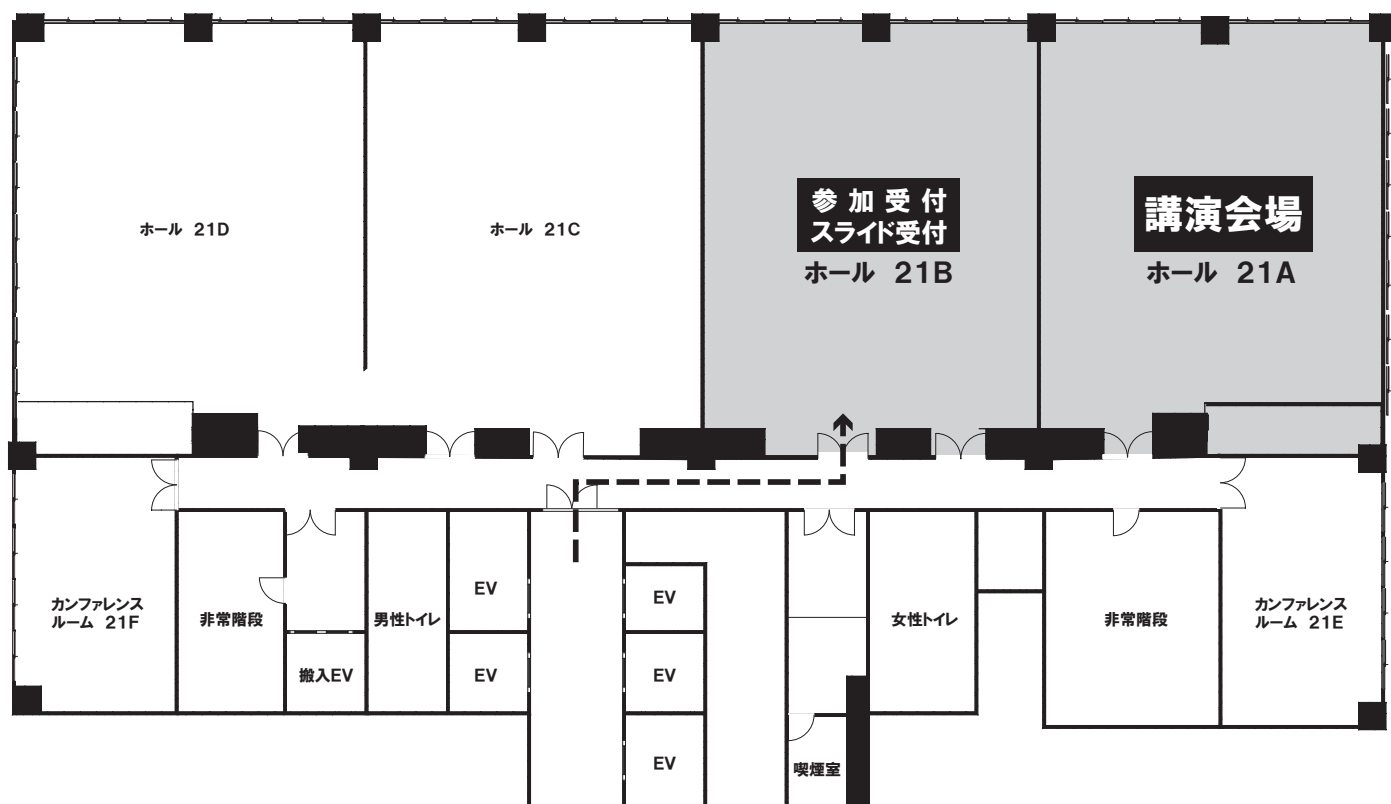
TKPガーデンシティ仙台 ホール21AB(AER21階)

〒980-6130 宮城県仙台市青葉区中央1-3-1 TEL:022-208-7515

◎仙台駅より徒歩約3分

仙台駅2階西口を出て、ペデストリアンデッキを北方面に進み、
AER2階出入口より入り、
高層階用エレベーターをご利用になり21階へお越しください。
PARCO北隣のビルです。

TKPガーデンシティ仙台（AER21階）



参加者へのお知らせ

1. 会場案内

TKP ガーデンシティ仙台（ホール 21AB）

〒980-6130 宮城県仙台市青葉区中央 1-3-1 AER21 階

※本会は実会場開催のみで、ハイブリッドでは行いません。

2. 新型コロナウイルス感染症対策に関する協力をお願い

- ・当日、体調の悪い方は参加をご遠慮ください。
- ・会場内ではマスク着用をお願いいたします。
- ・手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行、3密の回避（特に参加受付周辺、会場内、パブリックスペース）についてご協力をお願いいたします。
- ・今後の感染状況により変更が生じる可能性がありますのでご了承ください。

3. 参加受付

受付場所：TKPガーデンシティ仙台（ホール21B）

受付開始時間：8時00分～

スライド受付：発表時刻の30分前までに受付にお越しください。

座長受付：担当セッション開始の30分前までに受付にお越しください。

4. 参加登録について

当日会場受付のみ（事前参加登録なし）となります。

●参加費

会員：1,000円、非会員：2,000円

※1：初期研修医、学部学生は無料です。

学生証または証明書をご提示ください（大学院生は参加費をお支払いください）。

※2：支払は現金のみとなります。釣銭が出ないようご用意ください。

●参加証・領収書について

- ・領収証は参加登録費お支払い時にお渡し致します。
- ・参加証は当日に参加費をお支払いいただいた際に、引換えにお渡し致します。

5. 認定更新単位登録

参加受付で参加受講証をお受取りください。その受講証をアレルギー学会本部へ郵送し、各自で単位登録の手続きをしてください。

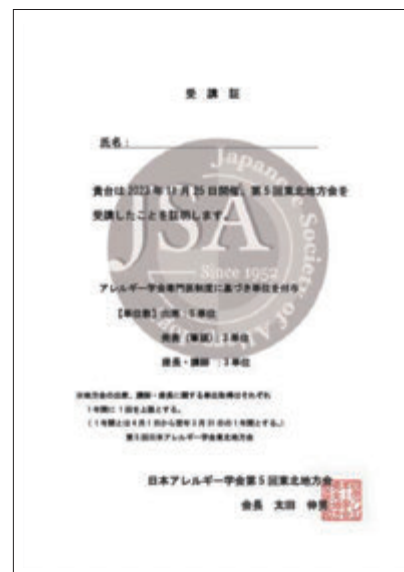
■郵送先 日本アレルギー学会

〒 100-0005 東京都台東区上野 1-13-3 MY ビル 4 階

■単位認定に関する問合せ先：日本アレルギー学会

TEL：03-5807-1701

Email：info@jsaweb.jp



6. 取得できる単位数

- (1) アレルギー学会専門医：発表（筆頭）、座長・講師は3単位、出席は5単位
- (2) 日本小児臨床アレルギー学会認定 小児アレルギーエデュケーター単位 参加：5単位
日本小児臨床アレルギー学会へ参加証をご提出ください
※ 1年（1月～12月）に1回のみ申請が可能です。前回1月開催時に申請をされた方は
申請ができませんので、ご注意ください。
- (3) 宮城県栄養士会 生涯教育制度 参加：自己研鑽2単位
学会参加証の原本で生涯教育制度の自己研鑽2単位を取得できます。
宮城県栄養士会へ参加証をご提出ください。

※単位認定方法についての詳細は各学会へお問い合わせください。

第5回日本アレルギー学会東北地方会事務局

〒 980-8574 仙台市青葉区星陵町 1-1

東北大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学分野東北大学病院 呼吸器内科

E-mail：jsa-tohoku@rm.med.tohoku.ac.jp

電話：022-717-8539 FAX：022-717-8549

第5回日本アレルギー学会東北地方会 日 程 表

第1会場(ホール21A)	
8:30	開会の辞 8:30~8:35
9:00	教育セミナー1 8:35~9:35 「花粉・食物アレルギー症候群の臨床像(耳鼻咽喉科医の立場から)」 座長 中村 豊、演者 大澤 陽子 共催:田辺三菱製薬株式会社
10:00	教育講演 I 9:35~10:05 「強皮症診療の進歩~最近の知見と新しい治療戦略~」 座長 川上 民裕、演者 浅野 善英
	一般演題 I 内科・皮膚科・基礎 1~6 10:05~10:59 座長 市川 朋宏
11:00	一般演題 II 小児科 1~3 10:59~11:26 座長 三浦 克志
休憩 11:26~11:35	
12:00	教育セミナー2 11:35~12:35 「鼻副鼻腔炎病態の変遷と診断・治療への対応」 座長 太田 伸男、演者 竹野 幸夫 共催:サノフィ株式会社
休憩 12:35~12:40	
13:00	教育講演 II 12:40~13:10 「小児気管支喘息治療・管理のトピックス」 座長 三浦 克志、演者 堀野 智史
	一般演題 III 耳鼻咽喉科 1~5 13:10~13:55 座長 室野 重之
14:00	休憩 13:55~14:00
	会長特別企画 日常アレルギー診療のコツと落とし穴 14:00~14:40 「小児の抗ヒスタミン剤の使い方について考える」 座長 藤野 直也、演者 北沢 博 「アレルギー性結膜疾患の点眼治療」 座長 藤野 直也、演者 高橋 秀肇
休憩 14:40~14:50	
15:00	教育セミナー3 14:50~15:50 「重症喘息病態におけるTreatable traitsとしての中樞気道粘液栓」 座長 一ノ瀬 正和、演者 金子 猛 共催:アストラゼネカ株式会社
休憩 15:50~15:55	
16:00	教育講演 III 15:55~16:25 「気管支喘息と遺伝子~FeNO GWASにより得られた知見~」 座長 杉浦 久敏、演者 山田 充啓
	教育講演 IV 16:25~16:55 「耳鼻咽喉科頭頸部外科と咳嗽について」 座長 松原 篤、演者 山田 武千代
表彰式・閉会の辞 16:55~17:00	

< プログラム >

一 般 演 題

開会の辞 8:30～8:35

日本アレルギー学会東北地方会 会長 太田 伸男
(東北医科薬科大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授)

一般演題Ⅰ 内科・皮膚科・基礎 10:05～10:59

座長：東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学分野

市川 朋宏

I-1 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症皮膚病変における 好酸球細胞外トラップの検討

東北医科薬科大学医学部 皮膚科学¹, 秋田大学 総合診療・検査診断学²
○川上 民裕¹, 横山 華英¹, 池田 高治¹, 富澤 宏基², 植木 重治²

I-2 性依存的喘息増悪機序における IL-33/ST2 軸の役割

東北医科薬科大学医学部 医学教育推進センター¹,
東北医科薬科大学医学部 免疫アレルギー病態学²,
東北医科薬科大学病院 アレルギーセンター³, 岐阜薬科大学免疫生物学⁴,
岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科⁵,
東北医科薬科大学薬学部 生化学⁶, 東北医科薬科大学⁷
○豊島かおる¹, 宮坂 智充^{1,2,3}, 田中 宏幸^{4,5}, 関 政幸⁶, 有川 智博^{1,2}, 宍戸 史¹,
佐々木雅史¹, 高柳 元明⁷, 大野 勲^{1,2,3}, 中村 豊^{1,2,3}

I-3 治療抵抗性の喘息患者において、喘息併存症の再評価の過程で診断に至った好酸球性食道炎の1例

東北大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学分野¹,
東北大学大学院医学系研究科 消化器病態学分野²
○佐野 寛仁¹, 谷地 一真², 八田 和久², 今野 周一¹, 鈴木真奈美¹, 遠藤 卓人¹,
齋藤 拓矢¹, 小野 祥直¹, 松本周一郎¹, 京極 自彦¹, 相澤 洋之¹, 村上 康司¹,
藤野 直也¹, 市川 朋宏¹, 山田 充啓¹, 玉田 勉¹, 正宗 淳², 杉浦 久敏¹

I-4 好酸球性胃腸炎に対しデュピルマブが有効であった喘息の一例

山形大学医学部附属病院 第一内科¹, 山形大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科²,
山形大学医学部附属病院 第二内科³

○佐藤 建人¹, 中野 寛之¹, 根本 貴子¹, 西脇 道子¹, 鈴木 祐輔², 五十嵐 朗¹,
阿部 靖彦³, 井上 純人¹, 渡辺 昌文¹

I-5 診断に苦慮した運動誘発性喘息の一例

弘前大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座¹,
弘前大学大学院医学研究科 臨床検査医学講座²,
弘前大学医学部附属病院 高度救命救急センター³

○石戸谷美奈¹, 糸賀 正道², 當麻 景章¹, 田中 寿志¹, 牧口 友紀¹, 石岡 佳子¹,
坂本 博昭¹, 白鳥 俊博³, 田坂 定智¹

I-6 精神疾患をもつ母親に対する社会的介入を必要とした重症アトピー性皮膚炎の1例

東北大学病院 皮膚科¹, 東北大学病院 小児科²

○天貝まゆ子¹, 高橋 隼也¹, 小澤 麻紀¹, 赤井 紗彩¹, 千葉 倫子¹, 神林 由美¹,
新妻 秀剛², 浅野 善英¹

一般演題II 小児科 10:59~11:26

座長：宮城県立こども病院 アレルギー科

三浦 克志

II-1 食物経口負荷試験の有用性

—不要なアレルゲン除去を回避できた小児3例—

公益財団法人星総合病院 小児科¹, 福島県総合療育センター 小児科²,
公立岩瀬病院 小児科³

○鈴木 健悟¹, 佐久間弘子¹, 増山 郁¹, 竹田 悠佳¹, 嶋 恵理子¹, 石綿 翔¹,
宗像 未来¹, 安藤 真有¹, 加藤 一夫¹, 鈴木奈緒子^{1,2}, 齋藤 淳哉^{1,3}

II-2 小児の運動誘発性気管支収縮を気道過敏性試験で診断した一例

宮城県立こども病院 アレルギー科

○宮林 広樹, 山口 祐樹, 秋 はるか, 堀野 智史, 三浦 克志

II -3 周術期のアナフィラキシー様反応：腸間膜牽引症候群の一例

秋田大学医学部附属病院 麻酔科¹,

秋田大学大学院医学系研究科 医学専攻病態制御医学系 総合診療・検査診断学講座²

○小玉早穂子¹, 植木 重治², 新山 幸俊¹

一般演題III 耳鼻咽喉科 13:10~13:55

座長：福島県立医科大学医学部 耳鼻咽喉科学講座

室野 重之

III -1 スギ花粉症に対する舌下免疫療法の効果判定に有用なバイオマーカーに関する検討

東北大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科¹, 東北医科薬科大学病院 耳鼻咽喉科²,

鈴木耳鼻咽喉科・アレルギー科医院³, 加茂耳鼻咽喉科⁴, 草刈耳鼻科⁵,

東北医科薬科大学病院 若林病院 耳鼻咽喉科⁶,

和歌山県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科⁷, ゆたクリニック⁸,

千葉労災病院 耳鼻咽喉科⁹

○北谷 栞^{1,2}, 太田 伸男², 鈴木 直弘³, 東海林 史⁶, 柴原 義博⁴, 草刈千賀志⁵,

榎本 雅夫⁷, 湯田 厚司⁸, 岡本 美孝⁹

III -2 必須脂肪酸である n-6 系脂肪酸／ n-3 系脂肪酸の摂取比はスギ花粉への感作に影響を与えるのか

弘前大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

○野村 彩美, 中村 千紘, 高畑 淳子, 松原 篤

III -3 アレルギー性鼻炎患者における第 2 世代抗ヒスタミン薬の睡眠への影響

東北医科薬科大学医学部 耳鼻咽喉科学¹, 大曲厚生医療センター 耳鼻咽喉科²

○佐藤 輝幸¹, 垂石 羊司², 鈴木 貴博¹, 野口 直哉¹, 山崎 宗治¹, 舘田 豊¹,

白鳥 明菜¹, 浅香 力², 太田 伸男¹

III -4 スギ・ヒノキ花粉症患者の好塩基球を用いた主要アレルゲンの解析

鳥居薬品株式会社 メディカルアフェアーズ部¹, 山梨大学医学部 免疫学講座²

○松原 弘季¹, 小林 義照², 鈴木 啓介¹, 中尾 篤人², 土井雅津代¹

III -5 福島市におけるスギ花粉飛散予測の試み

福島県立医科大学医学部 耳鼻咽喉科学講座

○室野 重之

教 育 講 演

教育講演 I (9:35 ~ 10:05)

座長

東北医科薬科大学医学部 皮膚科学 主任教授
川上 民裕

「強皮症診療の進歩～最近の知見と新しい治療戦略～」

演者

東北大学大学院医学系研究科 神経・感覚器病態学 皮膚科学分野 教授
浅野 善英

教育講演 II (12:40 ~ 13:10)

座長

宮城県立こども病院 アレルギー科 科長
三浦 克志

「小児気管支喘息治療・管理のトピックス」

演者

宮城県立こども病院 アレルギー科 部長
堀野 智史

教育講演Ⅲ (15:55～16:25)

座長

東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学分野 教授
杉浦 久敏

**「気管支喘息と遺伝子
～ FeNO GWAS により得られた知見～」**

演者

東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学分野 講師
山田 充啓

教育講演Ⅳ (16:25～16:55)

座長

弘前大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授
松原 篤

「耳鼻咽喉科頭頸部外科と咳嗽について」

演者

秋田大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授
山田武千代

会長特別企画

日常アレルギー診療のコツと落とし穴
(14:00～14:40)

座長

東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学分野 病院講師
藤野 直也

演者

東北医科薬科大学医学部 小児科学 講師
北沢 博

「小児の抗ヒスタミン剤の使い方について考える」

東北医科薬科大学医学部 眼科学 教授
高橋 秀肇

「アレルギー性結膜疾患の点眼治療」

教育セミナー

教育セミナー 1 (8:35 ~ 9:35)

座長

東北医科薬科大学医学部 医学教育推進センター 教授
中村 豊

「花粉・食物アレルギー症候群の臨床像 (耳鼻咽喉科医の立場から)」

演者

福井赤十字病院 耳鼻咽喉科 代表部長
大澤 陽子

共催：田辺三菱製薬株式会社

教育セミナー 2 (11:35 ~ 12:35)

座長

東北医科薬科大学医学部 耳鼻咽喉科学 教授
太田 伸男

「鼻副鼻腔炎病態の変遷と診断・治療への対応」

演者

広島大学大学院 耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学 教授
竹野 幸夫

共催 サノフィ株式会社

教育セミナー 3 (14:50～15:50)

座長

大崎市民病院 アカデミックセンター 監理官
一ノ瀬正和

**「重症喘息病態における Treatable traits としての
中枢気道粘液栓」**

演者

横浜市立大学大学院 医学研究科呼吸器病学教室 主任教授
金子 猛

共催 アストラゼネカ株式会社

< 抄 録 集 >

一般演題 I 内科・皮膚科・基礎 10:05~10:59

座長：東北大学大学院医学系研究科 内科病態学講座 呼吸器内科学分野 市川 朋宏

I-1 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症皮膚病変における好酸球細胞外トラップの検討

東北医科薬科大学医学部 皮膚科学¹, 秋田大学 総合診療・検査診断学²

○川上 民裕¹, 横山 華英¹, 池田 高治¹, 富澤 宏基², 植木 重治²

好酸球性多発血管炎性肉芽腫症では、好酸球細胞外トラップの関与が指摘されている。東北医科薬科大学皮膚科で経験した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症4症例の皮膚生検病理組織標本を用いて、Charcot-Leyden 結晶蛋白である Galectin-10 と major basic protein の免疫染色を行った。Charcot-Leyden 結晶が血管炎を生じている好酸球周辺、特に病初期の皮膚生検標本で顕著であった。好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の病勢と好酸球細胞外トラップとの関連について考察する。

I-2 性依存的喘息増悪機序における IL-33/ST2 軸の役割

東北医科薬科大学医学部 医学教育推進センター¹,

東北医科薬科大学医学部 免疫アレルギー病態学²,

東北医科薬科大学病院 アレルギーセンター³, 岐阜薬科大学免疫生物学⁴,

岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科⁵,

東北医科薬科大学薬学部 生化学⁶, 東北医科薬科大学⁷

○豊島かおる¹, 宮坂 智充^{1,2,3}, 田中 宏幸^{4,5}, 関 政幸⁶, 有川 智博^{1,2}, 穴戸 史¹,

佐々木雅史¹, 高柳 元明⁷, 大野 勲^{1,2,3}, 中村 豊^{1,2,3}

成人喘息病態の性差発現機序を解明するために IL-33 とその受容体である ST2 発現の性差に着目し、喘息モデルマウスを用いた解析を行った。雄マウスに比して雌マウスの肺内では IL-33 産生量および Lineage+ST2+ 細胞数が著明に増加しており、抗 ST2 抗体の投与により喘息反応の性差は消失した。本結果から IL-33 を介した獲得免疫機構活性化における性差が喘息反応の性差に関与している可能性が示唆された。

I-3 治療抵抗性の喘息患者において、喘息併存症の再評価の過程で診断に至った好酸球性食道炎の1例

東北大学大学院医学系研究科 呼吸器内科学分野¹,

東北大学大学院医学系研究科 消化器病態学分野²

○佐野 寛仁¹, 谷地 一真², 八田 和久², 今野 周一¹, 鈴木眞奈美¹, 遠藤 卓人¹,
齋藤 拓矢¹, 小野 祥直¹, 松本周一郎¹, 京極 自彦¹, 相澤 洋之¹, 村上 康司¹,
藤野 直也¹, 市川 朋宏¹, 山田 充啓¹, 玉田 勉¹, 正宗 淳², 杉浦 久敏¹

症例は59歳女性。他院で間欠的な全身性ステロイド投与で喘息の加療をされていた。吸入薬を開始するも下気道症状は遷延した。併存症の再評価にて嚥下困難が判明し、上部消化管内視鏡で病理学的に好酸球性食道炎 (EoE) と診断された。併存症として胃食道逆流症 (GERD) の併存は知られているが、EoE が喘息症状に与える影響は不明である。EoE の有病率は本邦でも増加しており、EoE を含め GERD 以外の食道疾患の認知は喘息の併存症評価として重要である。

I-4 好酸球性胃腸炎に対しデュピルマブが有効であった喘息の一例

山形大学医学部附属病院 第一内科¹, 山形大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科²,

山形大学医学部附属病院 第二内科³

○佐藤 建人¹, 中野 寛之¹, 根本 貴子¹, 西脇 道子¹, 鈴木 祐輔², 五十嵐 朗¹,
阿部 靖彦³, 井上 純人¹, 渡辺 昌文¹

症例は57歳女性。X-20年頃に喘息、X-3年に好酸球性副鼻腔炎と診断された。腹痛と下痢を繰り返しており、X-2年に好酸球性胃腸炎と診断された。腹部症状をきたすことがあり、経口ステロイドでの治療が続けられていた。喘息のコントロールも不十分であり、X年にデュピルマブを開始したところ、喘息症状に加え腹部症状も安定化した。経口ステロイドを中止にして2年が経過するも、腹部症状の再燃はなく経過している。

I-5 診断に苦慮した運動誘発性喘息の一例

弘前大学大学院医学研究科 呼吸器内科学講座¹,
弘前大学大学院医学研究科 臨床検査医学講座²,
弘前大学医学部附属病院 高度救命救急センター³

○石戸谷美奈¹, 糸賀 正道², 當麻 景章¹, 田中 寿志¹, 牧口 友紀¹, 石岡 佳子¹,
坂本 博昭¹, 白鳥 俊博³, 田坂 定智¹

22歳女性。X-1年9月時折出現する呼吸困難にて当院総合診療部を紹介され、精査にて質的栄養失調と診断された。加療開始されるも症状の改善は乏しく、X年1月当科紹介となった。各種臨床検査で異常なく、運動や冬場入浴後に症状出現することから運動誘発性喘息を疑い、運動負荷呼吸機能検査を施行した。運動誘発性気道収縮を認め運動誘発性喘息と診断した。運動誘発性呼吸困難は、様々な鑑別を念頭におき診療する必要がある。

I-6 精神疾患をもつ母親に対する社会的介入を必要とした重症アトピー性皮膚炎の1例

東北大学病院 皮膚科¹, 東北大学病院 小児科²

○天貝まゆ子¹, 高橋 隼也¹, 小澤 麻紀¹, 赤井 紗彩¹, 千葉 倫子¹, 神林 由美¹,
新妻 秀剛², 浅野 善英¹

2歳男児。生後3か月からアトピー性皮膚炎(AD)があった。母子家庭で母親はうつ病の加療中であったため、受診が不定期で外用コンプライアンスも不良であり、皮疹の改善は不十分であった。母親の申し出を契機に児童相談所が介入し、患者は一時保護となった。看護師による適切な外用治療がなされたところ、ADの皮疹はほぼ消失した。家庭環境を考慮し、母親への負担が少ない治療選択や社会的介入を早期に提案すべき症例であった。

一般演題Ⅱ 小児科 10:59~11:26

座長：宮城県立こども病院 アレルギー科 三浦 克志

Ⅱ-1 食物経口負荷試験の有用性

ー不要なアレルゲン除去を回避できた小児 3 例ー

公益財団法人星総合病院 小児科¹, 福島県総合療育センター 小児科²,
公立岩瀬病院 小児科³

○鈴木 健悟¹, 佐久間弘子¹, 増山 郁¹, 竹田 悠佳¹, 嶋 恵理子¹, 石綿 翔¹,
宗像 未来¹, 安藤 真有¹, 加藤 一夫¹, 鈴木奈緒子^{1,2}, 齋藤 淳哉^{1,3}

食物経口負荷試験 (OFC) により, 食材除去を回避できた 3 例を報告する. 【症例 1】13 歳. エゴマ料理を 3 回食べて毎回蕁麻疹あるも OFC 陰性. 【症例 2】9 歳. 多抗原陽性の食物アレルギー児. 学校給食で咳嗽, 胸痛が出現しエピペン® を筋注され, タケノコが疑われたが OFC は陰性. 【症例 3】5 歳. 小麦アレルギーでカシューナッツ感作あり. ママレードジャムで蕁麻疹が出現し, ペクチンの交差反応を疑うも OFC は陰性.

Ⅱ-2 小児の運動誘発性気管支収縮を気道過敏性試験で診断した一例

宮城県立こども病院 アレルギー科

○宮林 広樹, 山口 祐樹, 秋 はるか, 堀野 智史, 三浦 克志

14 歳男児でサッカーを週 5 回しており, 運動する度に呼吸苦の訴えを認め, 当院へ紹介受診となった. 運動時以外の症状は有さず, 今まで気管支喘息の指摘はなかった. スクリーニング検査で他の鑑別疾患を否定した後, 診断目的のためにメタコリンを用いた気道過敏性試験を行った. 検査途中で呼気性喘鳴が生じ, 基準からの一秒量の有意な低下を認め, 陽性判定で運動誘発気管支収縮と診断した. その後の管理や指導も併せて報告する.

Ⅱ-3 周術期のアナフィラキシー様反応：腸間膜牽引症候群の一例

秋田大学医学部附属病院 麻酔科¹,

秋田大学大学院医学系研究科 医学専攻病態制御医学系 総合診療・検査診断学講座²

○小玉早穂子¹, 植木 重治², 新山 幸俊¹

症例は生後 2 日の女児. 上部消化管狭窄のため全身麻酔下開腹手術を行った. 腸管操作開始数分後より急激な血圧低下, 心拍数上昇, 顔面～上半身の皮膚紅潮を認めた. 鑑別として腸間膜牽引症候群とアレルギーが挙げられたが, 気道内圧の変化がなく症状発現のタイミングから前者と判断し対症療法を行った. 約 10 分後に循環動態は安定し手術は無事終了した. 周術期のアナフィラキシー様反応について文献的考察をふまえて報告する.

一般演題Ⅲ 耳鼻咽喉科 13:10~13:55

座長：福島県立医科大学医学部 耳鼻咽喉科学講座 室野 重之

Ⅲ-1 スギ花粉症に対する舌下免疫療法の効果判定に有用なバイオマーカーに関する検討

東北大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科¹, 東北医科薬科大学病院 耳鼻咽喉科²,
鈴木耳鼻咽喉科・アレルギー科医院³, 加茂耳鼻咽喉科⁴, 草刈耳鼻科⁵,
東北医科薬科大学病院 若林病院 耳鼻咽喉科⁶,
和歌山県立医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科⁷, ゆたクリニック⁸,
千葉労災病院 耳鼻咽喉科⁹

○北谷 栞^{1,2}, 太田 伸男², 鈴木 直弘³, 東海林 史⁶, 柴原 義博⁴, 草刈千賀志⁵,
榎本 雅夫⁷, 湯田 厚司⁸, 岡本 美孝⁹

舌下免疫療法 (SLIT) における治療効果判定に有用なバイオマーカーは未だ明らかではないのが現状である。今回我々は、スギ花粉症患者を SLIT 著効群 / 非著効群、皮下免疫療法群の計 3 群に分類し、各群の血清バイオマーカーを測定し、治療効果判定への有用性に関して検討を行った。血清スギ特異的 IgG4 値はスギ花粉症に対する SLIT の臨床的な有効性と有意な相関を示し、カットオフ値 989.5 UA/mL が SLIT の治療効果と関連していた。

Ⅲ-2 必須脂肪酸である n-6 系脂肪酸 / n-3 系脂肪酸の摂取比はスギ花粉への感作に影響を与えるのか

弘前大学大学院医学研究科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座

○野村 彩美, 中村 千紘, 高畑 淳子, 松原 篤

n-6 系脂肪酸 / n-3 系脂肪酸の高摂取率は炎症を惹起する可能性があるといわれている。今回我々は、青森県弘前市岩木地区の一般地域住民を対象とした健診を行い、簡易型自記式食事歴法質問票からその摂取量を算出し、スギ花粉感作との関連を検討した。

結果は、50 歳以上で脂肪酸の摂取率が高い群は、低い群よりも有意にスギ花粉に感作していた。以上より、脂肪酸の摂取比はスギ花粉感作に影響を与える可能性が示唆された。

Ⅲ-3 アレルギー性鼻炎患者における第2世代抗ヒスタミン薬の睡眠への影響

東北医科薬科大学医学部 耳鼻咽喉科学¹, 大曲厚生医療センター 耳鼻咽喉科²

○佐藤 輝幸¹, 垂石 羊司², 鈴木 貴博¹, 野口 直哉¹, 山崎 宗治¹, 舘田 豊¹,
白鳥 明菜¹, 浅香 力², 太田 伸男¹

アレルギー性鼻炎患者に近年発売された第2世代 H1 抗ヒスタミン薬を非脳浸透性抗ヒスタミン薬服用者 (NBP 群) と脳浸透性抗ヒスタミン薬服用者 (BP 群) に分け, 服用前後のピッツバーグ睡眠質問票の各評価項目について統計解析を施行した。第2世代 H1 抗ヒスタミン薬内服前後では, NBP 群と BP 群ともに主観的睡眠障害は改善していた。しかしながら, 主観的睡眠の質と総合ピッツバーグ睡眠スコアは, NBP 群でのみ改善していた。

Ⅲ-4 スギ・ヒノキ花粉症患者の好塩基球を用いた主要アレルゲンの解析

鳥居薬品株式会社 メディカルアフェアーズ部¹, 山梨大学医学部 免疫学講座²

○松原 弘季¹, 小林 義照², 鈴木 啓介¹, 中尾 篤人², 土井雅津代¹

スギ花粉及びヒノキ花粉に含まれる主要アレルゲンを用い, 好塩基球活性化試験を行った。スギ花粉症患者 (n=22) の好塩基球を Gr.1 (Cry j 1, Cha o 1), Gr.2 (Cry j 2, Cry j 2), Gr.3 (Cha o 3) で刺激した。その結果, 好塩基球は Group1 及び Group 2 で活性化され, Cha o 3 での活性は稀であったことから, スギ花粉及びヒノキ花粉における主要アレルゲンは, Gr 1 及び Gr 2 であると示唆される。

Ⅲ-5 福島市におけるスギ花粉飛散予測の試み

福島県立医科大学医学部 耳鼻咽喉科学講座

○室野 重之

スギ花粉症は今や国民病であり, 抗原回避や初期療法の点から花粉飛散予測の意義は大きい。過去 20 年余のデータから, 1) スギ花粉飛散開始日を予測する条件を見出すとともに, 2) 重回帰分析によりスギ花粉飛散総数の予測式を求めた。民間気象会社等よりも精度の劣る独自予測ではあるが, 概ね満足できるものであった。しかし 2023 年春は, 1) では誤差 6 日, 2) では予測の 33% 増の飛散総数であり, 課題の残る結果であった。

協 賛 企 業

共 催

アストラゼネカ株式会社

サノフィ株式会社

田辺三菱製薬株式会社

広 告

アッヴィ合同会社

ヴィアトリス製薬株式会社

杏林製薬株式会社

グラクソ・スミスクライン株式会社

チェスト株式会社

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

(50 音順)



3成分配合 喘息・COPD治療剤 薬価基準収載

処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

テリルジー 100エリプタ

14・30吸入用

TRELEGY ELLIPTA

フルチカゾンフランカルボン酸エステル・
ウメクリジニウム臭化物・ピランテロール
トリフェニル酢酸塩ドライパウダーインヘラー



3成分配合 喘息治療剤 薬価基準収載

処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)

テリルジー 200エリプタ

14・30吸入用

TRELEGY ELLIPTA

フルチカゾンフランカルボン酸エステル・
ウメクリジニウム臭化物・ピランテロール
トリフェニル酢酸塩ドライパウダーインヘラー

※「効能又は効果」、「用法及び用量」、「禁忌を含む注意事項等情報」等については電子添文をご参照ください。

テリルジーは、グラクソ・スミスクライン、そのライセンサー、提携パートナーの登録商標です。
テリルジー・エリプタは、米国 INNOVIVA 社と共同開発した製品です。
©2021 GSK group of companies

製造販売元
グラクソ・スミスクライン 株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1

文献請求先及び問い合わせ先
TEL: 0120-561-007 (9:00~17:45/土日祝日及び当社休業日を除く)
FAX: 0120-561-047 (24時間受付)

専用アプリ「添文ナビ」で
GS1バーコードを読み取ることで、
最新の電子添文等を閲覧できます。



(01) 14987246783023
(テリルジー100エリプタ14・30吸入用、
テリルジー200エリプタ14・30吸入用)

PM-JP-FVU-ADVT-210001
改訂年月2022年12月(MK)



チロシンキナーゼ阻害剤／抗線維化剤

劇薬 | 処方箋医薬品 | 注意 - 医師等の処方箋により使用すること

薬価基準収載

オフエブ® 100mg
カプセル 150mg

ニンテダニブエタンスルホン酸塩製剤 OFEV® Capsules 100mg・150mg

効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等につきましては製品電子添文をご参照ください。



製造販売元（文献請求先及び問い合わせ先）


日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

DIセンター

〒141-6017 東京都品川区大崎 2丁目 1番 1号 ThinkPark Tower

TEL: 0120-189-779

<受付時間>9:00～18:00（土・日・祝日・弊社休業日を除く）

2023年3月作成 



ヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤

薬価基準収載

リンヴォック[®]錠 30mg
15mg

ウパダシチニブ水和物錠

RINVOQ[®]

劇薬 処方箋医薬品[※]

注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

- 効能又は効果、用法及び用量、警告・禁忌を含む注意事項等情報等については電子化された添付文書(電子添文)を参照してください。



製造販売元

アッヴィ合同会社

東京都港区芝浦3-1-21

2023年3月作成

JP-RNQD-210211-3.0

(文献請求先及び問い合わせ先)
くすり相談室
フリーダイヤル 0120-587-874

abbvie



アナフィラキシー補助治療剤

薬価基準収載

アドレナリン注射液

エピペン[®]注射液 0.15mg

日本薬局方 アドレナリン注射液

エピペン[®]注射液 0.3mg

劇薬、処方箋医薬品(注意-医師等の処方箋により使用すること)



薬価基準
収載

EPIPEN[®]

「効能・効果」、「用法・用量」、「警告、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意」、「効能・効果に関連する使用上の注意」及び「用法・用量に関連する使用上の注意」等については電子添文をご参照ください。

製造販売元 **ヴィアトリス製薬株式会社**

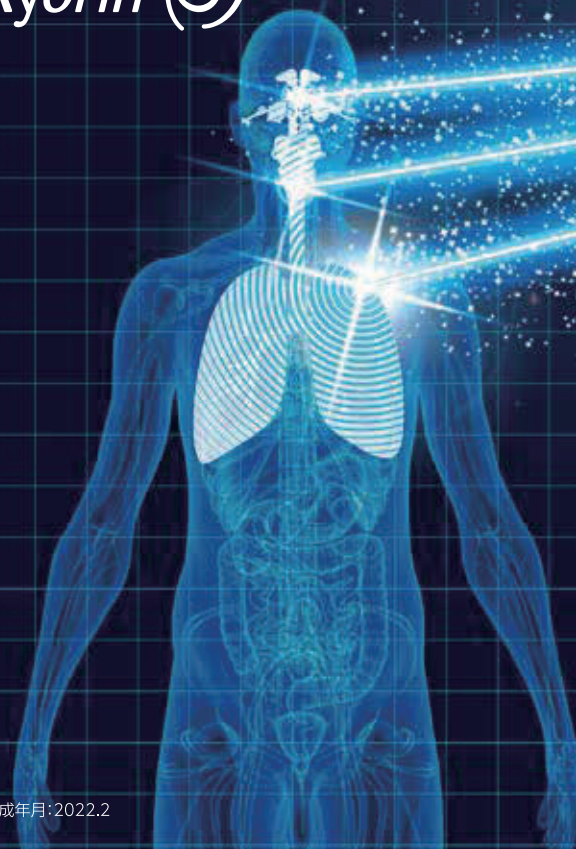
東京都港区虎ノ門5丁目11番2号

(エピペン専用フリーダイヤル) エピペンカスタマーサポートセンター 0120-303-347

 **VIATRIS**

EPI72M003
2022年12月作成

Kyorin 



ニューキノロン系経口抗菌剤 薬価基準収載

処方箋医薬品^注
ラスクフロキサシン塩酸塩錠



ラスビック[®]錠75mg

Lasvic[®] Tablets 75mg

略号：LSFX

^注注意—医師等の処方箋により使用すること

効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む注意事項等情報については電子添文をご参照ください。

杏林製薬株式会社

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
(文献請求先及び問い合わせ先：くすり情報センター)

作成年月：2022.2

お客様の声をカタチにして、モストグラフが待望のアップデート！
3Dカラーグラフィックの見やすさと
使いやすさを追求しました。

総合呼吸抵抗測定装置

MostGraph[®]-03

- 23インチワイド液晶モニターで3Dカラーグラフィック波形や数値を表示
- 2Dカラーグラフ、3Dカラーグラフィックを組み合わせた7パターンの画面表示
- 測定値の時系列グラフ、3Dカラーグラフィックの時系列表示・印刷[※]
- 小児測定に対応した3Dカラーグラフィックのキッズスケール
- キャリブレーションチェック履歴表示、精度管理レポート印刷[※]
- 測定補助アニメーションなどを採用したスパイロメトリ機能(オプション)

[※]印刷をするにはオプションのプリンタセットが必要です。



先進の医療機器で健やかな呼吸をサポート

チェスト株式会社

本社/〒113-0033 東京都文京区本郷3-25-11

仙台営業所/〒984-0013 宮城県仙台市若林区六丁の目南町4-50

TEL. (03) 3813-7200 (代)

TEL. (022) 385-6411 (代)

ホームページ

<https://www.chest-mi.co.jp>

営業所 / 札幌・秋田・仙台・新潟・さいたま・東京・西東京・横浜・名古屋・金沢・大阪・広島・松山・福岡・大分